

## 今月の御教え

みな、神の分け御霊を授けてもらい、肉体を与えてもらって、この世に生まれてきているのである。そうしてみれば、この世を去るのに苦痛難儀をするのは、人間の心からの事である。神からお授けくださった体がこの世を去る時、痛いかゆいがないよう、ただ年病みのゆえというように長生きをし、孫子まで見て、安心して死ぬのが、神の分け御霊をいただいている者のすることである。金光大神の教えを守れば、末を楽しみ、安心してこの世を去ることが出来るから、若い時に信心して元気に働いておいて、その様な御蔭を受けるがよい。

……「天地は語る」第五十九条……

## 解説

この御教えは、神様から見れば、私達人間は、神様の分け御霊を頂いてこの世に生まれてきたのですから、この世を去る時は、死後の安心を得て、死ぬことが出来るはずであるのに「後事に憂いを残しつつ、死後の行く先に暗澹たる不安をもち、苦痛にさいなまれて死ぬようなことでは、神の氏子として真に残念極まりなき事である」と仰せられています。そして、最期に臨んでは、憂いなく後の者に後事を託し、自身は神様の許に帰ることを喜んで、この世を去ることが出来るように、日々、信心に勤しみ、お礼と喜びの心を以て、己が勤めに励んでその様な御蔭を受けなさいと御教え下さっているのです。